6 林 業

| 項 | 目 | 作 業 内 容 |
|------|------|---|
| シイタケ | ア栽培に | (今月の作業のポイント) ・新たなホダ木を作るための作業 ○原木の選定、○原木の伐採 ・これからシイタケを発生させるための作業 ○ホダ場の選定 ○ホダ起こし 原木の伐採等作業を実施するためには、毎日発表される週間 |
| (1)原 | 木の選定 | 天気予報を確認する。 シイタケ原木の最適樹種は、クヌギ、コナラであるが、カシ類、シイ類、シデ類も適樹種である。 また、原木に適する樹齢は、クヌギが10~18年、コナラが15~25年生、カシ類、シイ類、シデ類が30~60年である。 |
| (2)原 | 木の伐採 | シイタケ原木の伐採適期は、クヌギでは3分黄葉期で、晴天が数日続いている時がよい。この時期は、樹液の流れが少なくなり樹皮が剥げにくくなる。 一方、まだ葉から蒸散が行われているため、伐採後の「葉枯らし」により、葉の蒸散作用で辺材部の水分が抜けて材組織の枯死が進み、シイタケ菌糸がまん延するのに適した原木状態となる。(表1、写真1)この「葉枯らし」の期間は1~2ヶ月ぐらいが適当であるが、伐採地の地形や環境、樹種、原木の大きさ、気象条件などを考慮して決める。 伐採時の注意事項は次のとおり。 ア 安全作業を心がけロープ等で伐採方向を定める。(写真1)イ 伐倒方向は、斜面に向かって上方向か水平方向とする。ウ 伐採した原木の伐り口を切り株や石などの上に乗せ、伐り口をできるだけ地面につけない。(写真2) |
| | | 表 1 原木の伐採適期 樹 種 クヌギ コナラ カシ類 シデ類 黄葉初期から 3 分黄葉 ◎ ◎ ◎ ◎ 4 分黄葉から 7 分黄葉 ◎ ◎ ◎ 寒期 (1月~2月上旬) ◎ ◎ 春期 (2月中~3月上旬) ◎ ○ ※この表は標準であって、場所、その年の気象条件などで、若干差が生じる場合がある。 ◎・・・最適期 ○・・・適期 ※老齢木は黄葉初期に伐採する。 |

項 目 作 業 内 玉などの被害部は取り除く。 写真1 原木の伐採の状況

容

エ 伐採の時、すでに害菌や穿孔虫などの侵入を受けている元







写真2 葉枯らしの状況

(3) ホダ場選定

ホダ場の温度条件と使用品種が合っていないと品種の特性が 発揮しにくい。特に、低温系品種はこの傾向が強いので、なる べく南から東南向きの日当たりが良く、昼夜の温度較差が大き い場所をホダ場に選定する。

(4) ホダ起こし

シイタケ菌糸が十分にまん延したホダ木を、シイタケの発生 環境に適した林内のホダ場に移し、シイタケが変形せずに生長 し採取しやすいようにホダ木を組み変えることを「ホダ起こし 」という。ホダ起こしは最低気温が数日間にわたり、使用品種 のきのこ発生に必要な温度以下になってから実施する。

ホダ起こし時の注意事項は次のとおり。

ア シイタケ菌糸のまん延したホダ木は、原木にくらべて樹皮 が傷付き易くなっている。このため、作業時に樹皮部が損傷 すると、損傷部やその周辺部が乾燥してシイタケ菌が衰弱・ 死滅し、その部分から害菌のトリコデルマなどが侵入し大き

| 項 | 目 | 作業内容 |
|---|---|--|
| | | な被害を受けることがあるので、取扱いに注意する。 イ 作業中、ホダ木に直射日光が当たると高温障害を起こし、シイタケ菌糸は衰弱して害菌の侵入を受け易くなるので、特に裸地伏せ地での作業は笠木を一度に取り除かないなど、直射日光が当たらないよう注意する。 ウ ホダ木を、ホダ場まで運び一箇所に積んだまましばらく置く場合が多いが、その間は直射日光が当たらないようホダ木を保護する。 エ ホダ木の組み方は、ヨロイ、ムカデ、合掌等の方法があるが、一般には合掌がシイタケを採取しやすい(図・1)。 オ ホダ木は、品種別、太さ別、樹種別に組んでおくと、発生操作、採取・選別などに都合が良い。 |
| | | 図ー1 合掌型模式図 (熊本県林業研究・研修センターHPより引用) |

(作成 林業研究センター)